

第2次

つるが男女共同参画プラン



第3回

基本目標2 男女共同参画のための生活環境を整える

家事や育児・介護など家庭での役割分担は、お互いの意思を尊重し、円満な生活を過ごすことができるよう協力することが大切です。
地域の支えあいや各種の福祉サービスを利用しながら、それぞれの希望に沿った生活ができるようにしましょう。

ご存知ですか？

ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

平成21年に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」で、ワーク・ライフ・バランスという言葉を見たり聞いたたりしたという方の割合は18・8%にとどまっています。

国では、一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることと説明しています。

今回のプランでは、このワーク・ライフ・バランスにも重点を置き、各個人の生活に応じた希望を実現できるように、家庭や地域で男女共同参画の視点が重要視されることを目標としています。

市民意識調査では、「妻が中心」と答えた項目が多くなっています。前回でもご紹介したように、お互いの考え方を尊重し納得した上で、役割を分担することが理想です。

平成21年男女共同参画に関する市民意識調査より
家庭生活における夫婦の主な役割分担について (%)

	夫が中心	妻が中心	夫婦同程度
炊事	1.3	89.8	4.8
家計のやりくり	9.5	70.2	15.2
日常の買い物	2.2	71.7	21.3
育児	0.3	58.4	22.2
老人や病人の世話	1.9	32.4	37.8
P T A活動	11.7	44.4	23.2
町内会・自治会	40.6	19.4	31.4

施策に関する数値指針

平成27年度までに……

「介護を要する老人や病人の世話を夫と妻の同程度で行う」市民の割合 37.8% → **50.0%**

放課後子ども教室の実施数 3か所 → **6か所**

基本課題

1

家庭での意識改革を進める

具体的な施策

- ⑦男女ともにワーク・ライフ・バランスのあり方を尊重しあう
- ⑧性別にとらわれない役割分担を行う

基本課題

2

子育てにおける男女共同参画を推進する

具体的な施策

- ⑨家族ぐるみ・地域ぐるみでの子育てを推進する
- ⑩保育サービスの充実で子育てをサポートする
- ⑪ひとり親家庭を支援し、自立した生活環境をつくる

基本課題

3

高齢者や障がい者福祉・介護における男女共同参画を推進する

具体的な施策

- ⑫福祉サービスの充実で高齢者の生活を支援する
- ⑬バリアフリーの空間づくりを進める

子育てや介護は、家庭・家族で行うことが理想ですが、各家庭の事情により負担が大きくなりすぎる場合があります。そのような時は、行政のサービスを利用したり、地域コミュニティでお互いに助け合うことが必要です。

育メン（育児をする男性）やカイダンシ（介護をする男性）が流行語に終らず、普通であることが求められます。これは、社会や職場環境にも左右されますので、まさにワーク・ライフ・バランスの実現が必要です。

私たちに求められる行動は……

- (Ⅳ) 子育てや介護など家族や地域で協力して進めましょう
- (Ⅴ) それぞれのワーク・ライフ・バランスを尊重しましょう



次回は
基本目標3「男女共同参画のための仕事環境をつくる」
について詳しくご紹介します！

介護予防への取り組みの「必要性が高い」と判断された方が利用できる、2つの教室をご紹介します。教室のご案内をさせていただいた方、ぜひ一度「介護予防教室」に参加してみませんか。



無料

送迎あり

元気はつらつ倶楽部

とき 毎月月初めより
週1回3カ月間
(水曜・金曜コースあり)

ところ 泉ヶ丘病院

内容 マシントレーニングやストレッチ体操



よくばり貯筋教室

とき 週1回3カ月間
ところ 公民館など
内容 筋力アップ・バランス体操、
栄養の話、口の体操など



※元気はつらつ倶楽部、よくばり貯筋教室は、介護予防への取り組みの「必要性が高い」と判断された方が対象です。

参加者の声

一人ではやめていたと思うが、みんなと一緒になので頑張れた

毎朝20分間体操をするようになった



運動をした後は足が軽くなり、帰り道が楽で驚いた

教室に参加するようになって腰痛が良くなった

介護予防大作戦!!

問合せ 地域包括支援センター「長寿」
(介護保険課内) ☎22-8181

元気な今が始めどき!



「基本チェックリスト」

介護認定を受けていない方へ

で介護予防を!

「基本チェックリスト」とは、高齢による衰弱や骨折・転倒・関節疾患など生活機能(日々暮らしていく力)の低下がみられないかを確認することができる自己チェック表です。25項目の簡単なアンケートに答えることで、介護予防の取り組みの必要性の高さがわかります。

また、「つまずきやすくなった」「食事のときにむせやすくなった」など、日常生活機能の低下のサインにいち早く気がつくことができ、介護予防の第1歩となります。

